

## 『オルガノン』について及び 『オルガノン』要約 (§1~9)

オルガノンは、1810年に初版が出版されました。第6版は、ハーネマンの死の前年1842年に書かれてましたが、刊行されたのは、1921年です。

表紙に記してある「**Aude Sapere**」は、直訳では「**勇気をもって賢くあれ!**」という激励の言葉ですが、その意味するところは「**有限の言葉で、無限の叡智を表すことはできない。だから、この本に盲従するのではなく、自分で考えて確かめよ!そして、さらに先に進みなさい!**」ということです。

(森井啓二著『臨床家のためのホメオパシーノート基礎編』より)

オルガノン全体は冒頭の§3に沿って構成されています。

§1~70=ホメオパシー基本原理(病気・健康・症状・治療法・生体反応)

§3-1=病気の認識について=§72~104

§3-2=レメディの治癒力に関する知識=§105~145

§3-3=レメディの選択と適用とその正しい投与法=§146~285

.....

## オルガノン要約 (§1~9)

§1 治療家(医師)の唯一の使命は病める人の健康を回復することだけである=それを「治療」と呼ぶ。(注)確かでもない理論医学を述べるのは止め、人々を助けるために行動に出るべき時である。

§2 理想的な治療とは、明確な根拠に則り、短期間で、無害で、速やかで、穏やかで、持続的で、全体的な回復のこと。

§3 治療家(医師)は次のことを明確に認識・知覚・洞察していなければならない。  
これが出来る人=真の治療家(ホメオパス)

- A) 病気の認識と兆候の読み取り=個々の症例で何が治療されるべきか?について
- B) レメディの治癒力に関する知識=個々のレメディの治癒力について知る
- C) レメディの選択と適用とその正しい投与法=投与量と反復方法について知る
- D) 治癒を妨げているものは何か。それらをどうすれば取り除けるのか。

§4 健康を妨げ病を発生させるもの(持続的要因 Maintaining causes)を遠ざけるのも医師の使命である。

§5 治療に役立つのは以下の2つである。

- A) 急性病を生じさせた誘因となる事実を知ること。
- B) 慢性病を生じさせた要因については、慢性マヤズムの根本原因を見つけるには、病の全体を見渡すことが大切である。そしてその根本原因を見つけるには、患者に関するあらゆること(身体の特徴・精神・職業・生活習慣・人間関係・年齢・性生

活など)を考慮すること。

§6 偏見なき観察者が唯一知覚すべきものは、外部に表現された病の徴候・現象・症状の全体（本来の健康状態からいかに逸脱しているか）である。治療家は、生命エネルギーの病的な作用（逸脱部分）全体を「観察」する必要がある。（外部に表現された症状以外に見るものはない）

§7 適切なレメディを示唆してくれる唯一のものは、生命エネルギーの病的状態とも言える病気の内的本性を反映した”症状の全体像”だけである。  
症状の部分ではなく、全体が除去すべきものである。

§8 症状の全体が取り除かれた後には、病気が残っていることはありえない。  
＝病は VF の乱れであり、その表現がなくなるということは乱れが解消されたことになる。

§9 健康な状態においては、目には見えない生命エネルギーが物質的身体を完全で調和的に管理・統治・維持している。健康な人においては、その生命エネルギーによって、人生におけるより高邁（高次元）な目的のために健康な身体を道具として自由に使用することが可能となる。